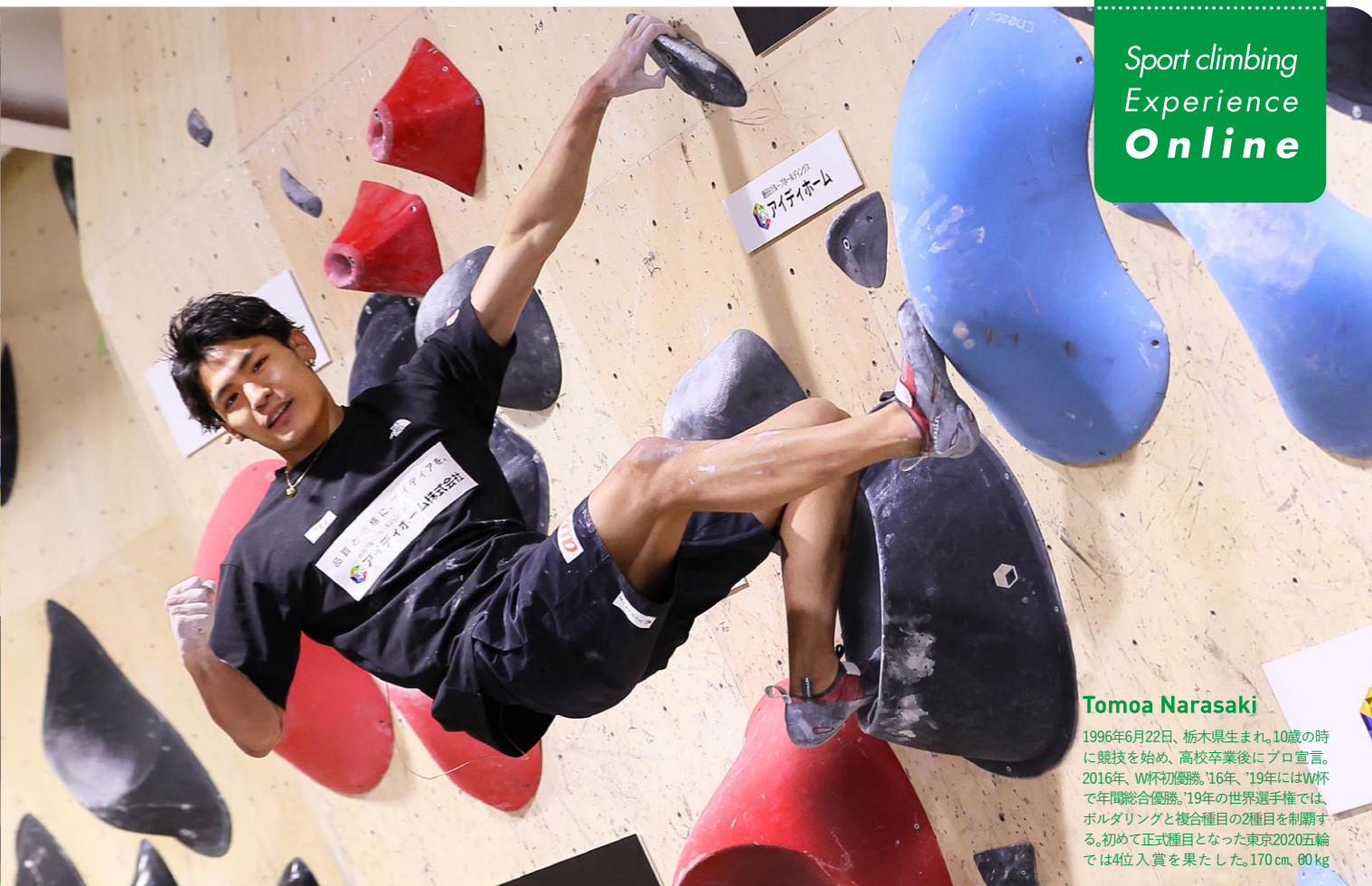


Sport climbing
Experience
Online



1 2 姉妹揃ってイベントに参加し、クライミングの動画を送ってくれた夏帆さん、由那さん。3 クライミングの動画を見ながらアドバイスを送る榎崎。4 イベントは、都内のクライミングジムから北は北海道、南は沖縄までオンラインで繋ぎ、開催された。5 イベント終了後には、参加してくれた子供たちと記念撮影。6 7 山形から参加してくれた永山さん親子



Tomoa Narasaki

1996年6月22日、栃木県生まれ。10歳の時に競技を始め、高校卒業後にプロ宣言。2016年、W杯初優勝。16年、19年にはW杯で年間総合優勝。19年の世界選手権では、ボルダリングと複合種目の2種目を制覇する。初めて正式種目となった東京2020五輪では4位入賞を果たした。170 cm、60 kg

「世界トップクライマーがオンラインイベントを開催」

榎崎智亜 「夢に向かって挑戦してほしい」

世界のスポーツクライミング界をリードするトップクライマー・榎崎智亜選手をゲストに、Numberとアイディホームがコラボしたスポーツクライミングイベントがオンラインで開催された。

福田剛=文 text by Tsuyoshi Fukuda
山元茂樹=写真 photographs by Shigeki Yamamoto

「Number」とアイディホームがコラボし、2018年からスタートした「家族で楽しむスポーツクライミング」。3回目となる今回はコロナ禍ということもあり、初のオンラインで開催された。「では早速、本日の主役をお呼びしましょう。世界トップクライマー・榎崎智亜選手です！」司会者の声に迎えられる、榎崎が爽爽と登場すると、オンラインで繋がっている画面から子供たちの拍手と歓声が上がった。今回のオンラインイベントは、抽選で選ばれた小学1年生から中学3年生までの50人のキッズクライマーが参加。Zoomを通じて質問をしたり、事前に投稿したクライミング動画を見た榎崎から直接アドバイスをもらえる双方向型で行われた。さらにクライミングを広く普及するために、イベントの様子はYouTube上でもライブ配信された。

画面越しではあるものの、憧れの選手と話ができるという夢の様な状況に、子供たちは、ときにはかみながら、ときに満面の笑みを浮かべながら積極的に質問する。「週に何回くらい練習していますか?」「大会のときにはいつもやっているルーティンがありますか?」「8月の世界大会では試合の前にどんなご飯を食べましたか?」「登れない課題があるときにどういう工夫をしていますか?」子供たちからのさまざまな質問に、榎崎は真摯に答えていく。クライミング動画を見ながらアドバイスをするコーナーでは、言葉では伝わらない身体の動きはウォールを使って丁寧に説明するなど、その姿勢からは子供たちにスポーツクライミングの楽しさを伝えるという想いと共に子供たちとの交流を楽しんでいる様子が窺えた。最後はスペシャルテクニクとして、ニ

ンジャの異名通り、ホールドを飛ばすように移動するダイナミックなムーブを披露。1時間に及ぶイベントはあっという間に幕を閉じた。

「初めてのオンラインイベントということ僕の方が緊張していたんですけど、子供たちの反応がすごくよくて、逆に楽しませてもらいました。競技人口が増えている中、僕たちトップクライマーがクライミングの技術やチャレンジする楽しさを伝えていくことが大切だと思っているんで、イベントが開催できて嬉しかったです」

世界トップクライマーの指導を、参加者ほどのように感じていたのだろうか。

姉妹で参加した小学5年の森山夏帆さんが「フィジカルな課題に、力の抜き方が良いと言われて嬉しかった」と語れば、小学3年の由那さんは「直接アドバイスを受けられて嬉しかった。次はジムでパフォーマンスを見たいです」とアドバイスをもらった喜びを伝えてくれた。お父さんの浩二さんによると、大会やイベントがコロナ禍でどんどん中止になっているという。「大会やイベントがあれば参加しようと、日々ネット検索をしています。今回は2人が喜ぶ姿を見ることができてよかったです」

山形県から参加した中学1年の永山翔翼



スポーツクライミングをこれからもサポート

昨年はコロナ禍のために残念ながらイベントを中止し、今回はオンラインでの開催となりました。子供たちの反応がどうなのか不安な部分もありましたが、大変喜んでいただき、画面を通じて沢山の笑顔を見ることができました。2017年から榎崎選手をサポートさせていただいていますが、年々スポーツクライミングの人気が高まっているのを感じます。榎崎選手のサポートを通じて、これからもスポーツクライミングの盛り上がりを支えていきたいと考えています。

榎崎選手も家族の応援があったから強くなることができたと、話してくれました。ぜひ皆さんも家族を大切に、支えあって、榎崎選手のように世界で活躍するクライマーになってください。

親子ともどもオンラインイベントを楽しむことができたようだ。今やスポーツクライミングは人気スポーツとなり、将来の夢は世界の舞台で金メダルを獲ることと、口にするキッズクライマーも多い。夢を叶えるために「どんどんチャレンジしてほしい」と榎崎は言う。「成功するしないにかかわらず、チャレンジすることに意味があるし、それがどんな結果になろうと受け入れて、また次に進んで行くことが大切。僕も世界一のクライマーになるという目標に向けて、みんなと一緒に頑張っていきたいです」